

次号予告と今後のご案内

2016年2月号 vol.2 no.1

Feature Topic

早期緩和ケアスクリーニングの実現可能性

——がん診療のスターティンググリッドはどこに？

早期からの緩和ケアの介入は患者のOverall Survivalを延長する。21世紀に入ってから話題になった論文があります。ただ、「早期から」とはいつからのことか？ 本特集では、「早期から」という言葉に惑わされがちな問題に、根幹から切り込みます。早期緩和ケアの真の姿とは。

View-point がん診療

「乳癌」

医療界のみならず、社会的にも注目をあつめることが多い乳癌。治療の領域に限らず、Body imageや家族へのフォローなど内包する問題は多岐にわたり、チームアプローチが必須とされます。治療とケアの理想的な関係をめざすエキスパートが解説します。

2016年7月号 vol.2 no.2

Feature Topic

超高齢者時代のがん診療

——どこまでできる、どこまでやれる

例えば全身化学療法は何歳まで適応できるのか——。超高齢化が進み、年齢だけで治療やケアの適応を考えることができなくなっています。リアルな適応の基準は？ その臨床的判断の根拠は？ そしてそのEvidenceは？ この日本だからこそ考えることができるがん診療のNew Level。

View-point がん診療

「原発不明癌」

悪性腫瘍の数%ともいわれる原発不明癌。臨床上では除外診断となるため、がん診療の専門家でなくては見逃しも多く、時には全身検索をただ繰り返してしまうことも。そんな原発不明癌の「いろは」から、最新の対応までこの一冊で教えます。

2016年10月号 vol.2 no.3

Feature Topic

本当に使える免疫療法

——がんの治療はどうなるのか

「免疫療法の時代」がすぐそこまで来ています。本庶佑名誉教授(京都大学)らの研究チームによる「PD-1」発見(1992年)から20年余り。臨床での治験が加速し、実用化が進んできました。がん治療第4の柱とも言われる免疫療法の臨床をどう変えるのか。

View-point がん診療

「大腸癌」

胃癌とともに日本国内での罹患者数は男女ともに依然多く、死亡数も多い大腸癌。しかしながら、早期の発見と治療開始によって治癒が十分に見込める癌であることもよく知られています。そんな大腸癌のエッセンスをエキスパートがレクチャーします。

*これら特集テーマについては変更の可能性がありますことをご了承ください。

学会・研究会情報掲載します

『Cancer Board Square』では「がん」に関する、学会、研究会、公開型の勉強会などの情報を無料で掲載いたします。編集室までお気軽にご連絡ください。

03-3817-5714(編集室直通)

カンファレンス取材のお願い

あなたの施設のカンファレンスを『Cancer Board Square』に掲載しませんか？ 本誌では、がんに関わるカンファレンスの取材先を募集しております。

- ・ Cancer Board
- ・ 診療科横断型のグランドカンファレンス
- ・ Death Conference
- ・ CPC
- ・ ナースによる振り返りカンファレンス
- ・ 若手の症例検討会

など、公開可能な活発なディスカッションの場がございましたら、編集室までぜひご連絡ください。

03-3817-5714(編集室直通)